

守れ! かずさ地域の小児救急

前々から社会問題として大きく取り上げられているもの、一向に改善される気配のない小児科医の不足問題。私たちの暮らしがずさ地域の現況はいつたいいようになっているのだろうか？

「小児科の医師不足は国全体が抱える問題なので、どの地域でも大変深刻なものです。とくに救急医療については危機的状況が続いていますね」と話してくれたのは、木更津・君津・富津・袖ヶ浦の4市の基幹病院である君津中央



木更津市が主催する「子育て講座」で講演する山田先生

病院の小児外科医・山田慎一先生。今、山田先生が最も危惧しているのは、小児救急医療の中でも夜間における医師不足だ。「現在、当病院では夜間の当直を少ない人数で何とかまわしているというのが実状です。もし、小児科医が1人でも減ってしまえば、小児科の救急医療体制が維持できなくなり、崩壊してしまってしまう」と警鐘を鳴らす。実際、小児科医不足で崩壊してしまった例は数知れない。

なぜこのような事態に陥っているのかを尋ねてみると、それにはどうやら医師不足からくる医師一人ひとりへの大きな負担、過酷な勤務実態に原因があるようだ。「私は小児外科ですが、小児科の医師たちは慢性的に疲労を抱えています。夜間の当直でも休め

ればまだ良いのですが、救急搬送が頻繁にあるので仮眠もろくにできない状態なのです」と山田先生。小児科医の不足問題は、夜間救急に対応した小児科医がそのまま直明けで通常の日勤をこなさなければならぬほど逼迫しているのだ。医師不足が負担増を招き、負担増から医師が減少するというスパイラル。しかし、この悪循環を少しでも緩和し、医師たちの負担を軽くする方法がある。それは、何でもかんでも医師に頼らないということ。実は、以前から救急患者として運ばれてくる子どもたちのうち、救急の必要性を感じられないケースがあまりにも多いことが問題視されているからだ。もし、親が子どもの病気についてある程度の知識を持っていたら…、子どもの症状

に対して冷静に判断することができたなら…。一人ひとりがたったこれだけのことを気にかけるだけで、かずさ地域の小児救急医療は守ることが出来るのかもしれない。不必要な夜間救急を減らすことは、医師の負担を減らすばかりか、本来に救急を必要とする方々への配慮にもつながる。山田先生はこうした医療現場の問題点を理解してもらったため、市役所などを通じて各地域の母子サークルなどで非番の日を使って講演活動を行っている。「講演に足を運んでくれるお母さん方は、私の話をよく理解してくださいませ。ですが、まだまだ周知が足り

ないので、これからもっと広めていきたいですね。」
ちょっとした子どもの病気に対処できる知識を得ておくことはとても大切なことだし、子育てする親の務めともいえる。かずさ地域の小児救急医療体制はいざというときのために、安心して暮らしていくためにも絶対に崩壊させてはならない。



国保直営総合病院 君津中央病院 小児外科医 山田慎一先生

コレって救急？ とりあえず安静?? お医者さんが教える 子どもの病気の見きわめ方

対象年齢: 1歳~15歳未満 監修/山田慎一先生(君津中央病院小児外科)
※これは夜間に救急を要するのか、または一晩様子を見るのかの基本的な指標です

- 子どもが病気になった場合、まずはあわてず冷静になることが大切です。
- 普段から近所のかかりつけ医を決めておきましょう。
- 一家に1冊、子どもの病気や症状に関する本などを用意しておきましょう。
- 厚生労働省の小児救急電話相談を利用することも1つの方法です。『#8000』に電話すれば、当該地区の相談センターにつながります。(千葉県の場合、健康福祉部医療整備課19:00~22:00)
- 病気と闘うには体力が必要です。病院へ車で移動するだけでも体力が奪われるので、様子を見ながら自宅で安静にしているほうが早く治る場合もあります。
- 具合の悪いときは免疫力も低下します。病院に行くときは風邪やインフルエンザなどの予防をしっかりと行ってください。



熱が出た

発熱は、体内に侵入したウイルスや細菌を排除するリンパ球などが闘いやすくするためのものなので、本人が元気なら無理に解熱剤を使用する必要はありません。熱以外の症状がない場合は、水分補給をこまめに家で様子を見るのが良いでしょう。ただし、呼吸がおかしいと感じる場合はすぐに受診してください。

インフルエンザかも

周囲でインフルエンザが流行っている場合、急な発熱はインフルエンザによる可能性が大きいことです。発熱後12時間以内は正しい判定が出ないこともあるので、翌日に近医で受診しましょう。一方で、発熱から48時間経過してしまうと薬を飲んでも効果が得られないともいわれています。受診のタイミングに気をつけてください。通院時のマスク着用は必須です。ただし、痙攣や意味不明なことを言ったり、暴れるような症状が見られたら、急いで救急外来へ。

おなかが痛い

腹痛だけであれば、まずは市販の浣腸薬などを使って排便を促してみましよう。子どもは便秘を起こしやすく、それによって痛みを訴えることがあります。排便すればスッキリというケースは意外と多いものです。毎日便が出ているからといって便秘にならないわけではなく、排泄量が少なければ便秘になります。腹痛の場合も、嘔吐や発熱、血便など他の症状が見られる時には病院へ行きましよう。

吐いちゃった&下痢しちゃった

嘔吐や下痢のどちらかであれば、そのまま様子を見ます。こまめに水分を与え、脱水に気をつけましよう。ロタウイルスやノロウイルスによる急性胃腸炎でもどちらかの症状しか出ない場合があります。看病する際は感染に注意が必要です。また、血液や胆汁(緑色の液体)を吐いた場合や水分を与えても吐いてしまう場合は受診が必要です。